



マスタース広島 News Letter

第21号 (2018年10月30日)

発行：広島大学マスタース広島事務局

【目次】

1. 「Special Professor 問題」への対応について
2. 第9回総会・懇親会報告
3. iPhone、iPad のブラウザによる本会のホームページの文字化けについて
4. 会員異動

1. 「Special Professor 問題」への対応について

2018年10月19日 広島大学マスタース広島幹事会

本年7月15日に、広島大学マスタース広島の会員を含む広大退職教員で「平和科目」、「日韓理工系学部留学生向け予備教育」「大学院共通科目」などの授業を担当している客員教員(=非常勤講師)に対して、広島大学より、新しくできた「Special Professor 制度」についての通知と、来年度の授業担当意向調査が送られてきました。

その主な内容は、本学の定年退職者を対象に Special Professor なる制度(雇用上限70歳)を創設し、広島大学定年退職者は従来の客員教授、客員准教授、客員講師の対象とはせず、授業に対する手当は90分当たり5000円(従来の半分)にするというものです。

これによると、広島大学マスタース広島の会員を中心に現在実施している「平和科目」C.D.の授業担当者の大半が70歳以上ですので、この科目は事実上実施が不可能になる恐れがあり、大学本部へ問い合わせを行いました。その結果、事務担当者からは「Special Professor 制度の定年に関しては従来の客員教員と同様の取扱いで、70歳はあくまで原則であって例外ありである。平和科目は、今年度(H30年度)例外対応としたが、次年度(H31年度)も例外扱いと考えている。」との回答がありました。

さらにその後のやりとりの中で、(1)今回送られてきた意向確認の文書は、本年度の客員教員にのみ送られたものである、(2)平成31年度からは客員教授ではなく、Special Professor になる、(3)平和科目担当の Special Professor には70歳の制限は設けないし、意向確認票は出さなくてよい、(4)「日韓理工系学部留学生向け予備教育」、その他広大マスタース広島が広島地区で開講する学部・大学院科目にも Special Professor 制が適用されるが、大学側からの依頼によってマスタースが実施するものであれば平和科目と同様に年齢制限を撤廃する、というのが、大学当局のスタンスであることが明らかになりました。

こうした状況を受けて、幹事会では幹事や実際に講義を担当している客員教員の意見を求めるとともに、それらを踏まえて7月26日、8月8日に会議を行って対応を検討した結果、この問題に関して大学当局に「要望書」を提出することを決め、これ以降、約1ヶ月にわたり、電子メールを通じて文案の検討を重ねてきました。そして、9月11日付けで以下に掲げる「要望書」を提出しました。

しかし、残念ながら大学当局からは何の反応もなく、またその後の事態の進展についても知らされておられません。この問題はマスタース広島がこれまで力を入れてきた「広島大学への貢献」活動の存続にも関わる重大な問題であり、「要望書」を会報とホームページに掲載することにしました。さらに、この問題に関して相田美砂子理事・副学長・教育本部全学教育統括本部長に対して、10月23日付けで「質問状」を送付して回答を求めることにしました。これについても、同様に掲載します。

幹事会としては、会員のみなさまに広く認識を共有していただき、ご意見をお寄せいただければと考えております。どうぞよろしくお願ひします。

要 望 書

平成 30 年 9 月 11 日

越智光夫 学長・広島大学マスターズ広島顧問殿
相田美砂子 理事・副学長・教育本部全学教育統括本部長殿

広島大学マスターズ広島 代表幹事 植木研介

先日、私ども広島大学マスターズ・広島大学マスターズ広島に所属している多数の会員に、相田副学長名で「平成 31 年度以降の授業担当について(意向確認)」なる文書が送付されてまいりました。その主な内容は、(1)Special Professor なる職を創設し、本学を定年退職した教員は授業を行う場合にはすべてこの職に属すること、(2)雇用上限は 70 歳とすること、(3)給与は 1 時限あたり 2,500 円(90 分授業 1 回につき 5,000 円)とする、などの点です。そして、平成 31 年度以降、Special Professor として授業を担当する意思があるか否かを、8 月 10 日(金)までに回答するよう求めております。

私ども広島大学マスターズ、及びマスターズ広島は、「平和科目」(「平和と人間—A,B,C,D」)の 4 科目(平成 30 年度受講生は 450 名)、及び「日韓理工系学部留学生向け予備教育」(日本と韓国の教科書の違いに鑑み、欠けたところ及び不十分なところを補う予備教育として、数学・物理・化学・生物の 4 科目について 10 月末から 3 月までの 10 週(各科目について週 1 回(90 分))を両マスターズで共同開講しております。また、大学院共通授業科目「学問と社会」、医歯薬保健学研究科の医歯薬保健学研究科医歯科学専攻修士課程の社会人大学院生向け「健康生活科学」、といった授業を担当しており、これらの授業創設・内容の企画には当初から参加し、授業担当者を確保することにも全力であたってまいりました。

とりわけ、「平和科目」は PHP 新書の『広島大学は世界トップ 100 に入れるのか』(2016 年 8 月刊)の中で、山下柚実氏が「平和科目」を全学必修との点を重要視して論じており、これには越智学長も注目されていることと存じております。「平和科目」実施の経緯に関しては、注 1 をご参照ください。

こうした活動を行っております私どもの会員は、大半が 70 歳を越えております。注 2 に「平和と人間」の今年度担当者の年齢構成を示しておきます。これから 2~3 年後の年齢構成、平和科目の重要性および必修科目であることから判断して、大学として新しい若い世代の人々の授業担当の仕組みを検討・確立する必要があると思います。学生の不利益を回避し、広島大学における教育の質を維持という観点から、広島大学には、これらの科目、特に「平和科目」の授業実施に関して大学としての運営組織・体制を早急に検討・確立することを要望いたします。

給与を従来の半額に引き下げるといった提案については、お送りいただいた文書では「より多くの方に本学での授業を担当していただけるよう」と理由付けされておりますが、私どもがこれまで提供してきました授業の質を考えるならば、率直に言ってあまりに一方向的な提案だと存じます。むしろ、引き下げを機会にかなりの人数の人々が授業担当を止めることが危惧され、それに伴って平和科目などの実施体制の確保・維持が困難になることも考えられます。

私どもは、これまで広島大学における学生教育の後方支援の立場から、授業に誠実に取り組んでまいりました。大学をとりまく様々な厳しい環境についても、元広島大学構成員として一応の理解をしているつもりです。そして、私どもの組織内部におきましても平和科目、日韓予備教育、社会人大学院教育などにおける授業担当体制の整備・改善を、常々考えております。私どものこのようなスタンスをご理解いただき、以上の要望・疑問にお答えくださることをお願いいたしたく存じます。どうかよろしくお願いいたします。

敬具

(注 1)「平和科目」実施に至る詳細な経緯については、広島大学平和センター長・川野徳幸教授がまとめられた報告書が、広島大学教育推進グループ(教養教育担当)に保管されておりますので、ご参照ください。また、広島大学マスターズや広島大学マスターズ広島がなぜ「平和科目」に関与することになったのかについては、広島大学マスターズ創立 10 周年記念誌『広島大学マスターズ 10 年の歩み』(2017 年)の中に、「広島大学への教育支援」なる項目がありますので、ご参照ください。

(注 2)例えば「平和と人間 D」の講義担当者の年齢構成は、70 歳 1 名、71 歳 1 名、72 歳 1 名、73 歳 2 名、74 歳 2 名、75 歳 2 名、77 歳 1 名、80 歳 1 名の 11 名から成っており、2~3 年後には、「平和と人間 C・D」は講義の編成が困難に直面し、成り立たなくなることが大いに危惧されます。

相田美砂子 理事・副学長・教育本部全学教育統括本部長殿

広島大学マスターズ広島 代表幹事 植木研介

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

10月も後半となり、来年度の授業について担当者と内容を具体的に決めなければならない時期となりました。私ども広島大学マスターズ広島では、これまで大学からの依頼に基づいて、広島大学マスターズとともに「平和科目」、「日韓理工系学部留学生向け予備教育」を共同開講し、また、大学院共通授業科目「学問と社会」、医歯薬保健学研究科医歯科学専攻修士課程の社会人大学院生向け「健康生活科学」の授業を担当し、授業担当者を確保することにも全力で当たってまいりました。

この度、去る7月12日付けで客員教員宛に「平成31年度以降の授業担当について(意向確認)」なる文書が送られてまいりました。それによると、平成31年から「Special Professor」という職名が創設されること、その制度では、対象者を本学を定年退職した教員(定年以外の退職をした教授を含む)とすること(この対象者は、従来の客員教授、客員准教授、客員講師の対象にはならない)、給与は2,500円/1時間(90分授業を1回につき5,000円：現時点の案)とすること、発令期間は最長1年(更新あり)で雇用上限は70歳(Special Professorとしての雇用上限)とすることなどと説明されています。

この制度に従えば、私どもマスターズが担当しております授業については、講師の大半が「70歳以上の広大退職者」であるために、来年度以降は実行不能となります。このような事態が危惧されましたので、私どもは平和科目WG座長の川野徳幸教授などを通じて教育室や教育本部の考え方を尋ねるとともに、9月11日付けで越智光夫学長と相田美砂子理事・副学長宛に「要望書」をお送りしました。その要望書では、私どもの基本的な考え方を説明しており、広島大学には、特に「平和科目」の授業実施に関して大学としての運営組織・体制を早急に検討・確立することを要望しています。また、給与を従来の半額に引き下げるという提案では、かなりの人数の教員が授業担当を止めることが予想され、平和科目などの実施体制の維持さえも困難になるのではないかと危惧されます。私どもの要望・疑問に対して、広島大学としての回答をお願いしました。

しかしながら、10月23日現在、この「要望書」に対する回答をいただいております。また、この要望への対応が現在どのように進展しているのかについても、情報を得る機会がありません。したがって、私どもが抱いております疑問と危惧は解消されないままです。授業担当者への依頼は、私どもマスターズの中に置かれた責任者が行ってまいりました。現状のように授業運営の方法が不明確な中では、責任をもって授業担当を依頼することができません。そこで改めて、この問題に関して責任を持っておられる相田美砂子理事・副学長・教育本部全学教育統括本部長に対して、以下の点を質問いたしたく存じます。

質問項目

- ①平和科目、日韓理工系、大学院2科目の担当教員には、70歳制限は適用されないのか否か。
- ②給与は2,500円/1時間(90分授業を1回につき5,000円)となるのか否か。

ご多用中のところを恐縮ですが、問題解消の緊急性から、11月9日までに植木研介(住所：省略)まで書面にて御回答ください。どうぞよろしく願いいたします。

2. 第9回総会・懇親会報告

広島大学マスターズ広島の第9回総会は、2018年5月26日(土)17時～17時30分にホテルグランヴィア広島21F「曙光」を会場に開催されました。出席者は正会員16名、協力会員1名、顧問1名、参与1名、計19名でした。

議事録は次の通りです。

(1) 議長の選出

井上代表幹事を選出した。

(2) 会員状況

総務担当の植村幹事が資料1に基づき報告した。



議長（井上研二代表幹事）



総会風景1



総会風景2

(3) 役員の改選

総務担当の植村幹事が資料2に基づき報告し、承認した。

(4) 平成29年度事業報告

総務担当の植村幹事が資料3に基づき報告し、承認した。

(5) 平成29年度決算書

会計担当の桑原幹事が資料4に基づき報告し、承認した。

(6) 会計監査報告

監査担当の幹事が所用で欠席のため、会計担当の桑原幹事から、監査を受けた結果について、「会計帳簿の記載は正確で、関係書類ならびに会計処理はすべて適正になされており、決算書のとおり相違がないことを確認していただきました」との報告があり、これを承認した。

(7) 平成30年度事業計画（案）

総務担当の植村幹事が資料5に基づき報告し、承認した。

(8) 平成30年度予算書（案）

会計担当の桑原幹事が資料6に基づき報告し、承認した。

なお、議事録中にある資料については「広島大学マスターズ広島」ホームページ(広島大学ホームページ左端の「校友会・同窓会」をクリックすると行き着きます)でご覧いただけますので、必要な場合にはご参照下さい。

総会終了後、17時30分～19時に同会場で懇親会が開かれました。以下のようなスケジュールで挨拶が行われ、料理とお酒を楽しみながら歓談に楽しい時を過ごしました。

1. 代表幹事（今年度就任）の植木研介先生の開会挨拶
2. 理事・副学長の山本陽介先生の挨拶（顧問の越智光夫学長の代理）
3. 乾杯（太田光雄先生の音頭）
4. 懇談
5. 広島大学マスターズ代表幹事の渡部和彦先生の挨拶
6. 協力会員NHK文化センター広島の中山 章総支社長の挨拶
7. 新入会員の圓山 裕先生の挨拶
8. 閉会挨拶

【代表幹事植木研介先生の開会挨拶（概略）】

代表幹事として今回2度目の登板となります植木です。前回、初代の渡辺一雄先生のあとを引き継いだのですが、体調を崩しまして、井上研二先生に後をお願いし、3年間お努めいただきました。ところが、井上先生も体調万全ではないということで、今回、再登場のお声掛けを頂きました。必ずしも、体調万全ではございませんが、幸い、リーグ優勝を果たしたカープの勢いとともに、元気を回復しておりますので、お引き受けした次第です。

わがマスターズ広島の設立の目的の一つに会員同士の親睦を図ることと掲げております。本日はこれから、そのメインイベントがございます。懇親の実があがりますよう、皆さんで大いに楽しみたいと存じますので、よろしく願い致します。以上で私の挨拶とさせていただきます。



【広島大学の山本陽介理事・副学長の挨拶（概略）】

研究担当の理事・副学長を務めております山本です。先生方には、広島大学の教養教育、大学院共通科目をご提供頂いておりますこと、まことに有難うございます。

本日は、大学の現状について少しご紹介させていただきます。4月から新しい学部「情報科学部」と総合科学部の新しい学科「国際共創学科」が発足し、順調にスタートをきっております。

さらに大学院再編も現在進行中でございますが、大きく生物系、医系、自然科学系、人文科学系、および第五の研究科（学際的、情報系など）の五つの研究科に再編統合されることになっております。また、大型資金獲得にむけて、例えば高齢化人口減社会に対応した社会形成に関する研究を目指しております。これは食、健康、コミュニティ形成、交通など幅広い分野をカバーした壮大な計画になると存じます。その際、コミュニティに対する教育というものも大事になって参ります。是非とも先生方と連携させて頂きたいと存じますので、今後ともよろしくお願い申し上げまして、私のご挨拶と致します。



乾杯
(太田光雄先生の音頭)

【渡部和彦参与(広島大学マスターズ代表幹事)の挨拶（概略）】

東広島の広島大学マスターズの代表幹事をしていまして渡部です。本日はこのような席にお招きいただき、ありがとうございます。

東広島のマスターズの最近の活動、特に市民に向けた活動についてご紹介いたします。一つ目は高齢者の健康づくりです。これまで、市民とともにウォーキングや健康体操などのイベントを実施しております。来月の16日にも志和町の海軍山でウォーキング登山を企画しております。海軍山には、戦時中30人ほどの海軍軍人が常駐し米軍機の見張りをした施設の遺構もあり、原爆投下機エノラ・ゲイも目視されたといわれています。

二つ目は地元テレビ、ラジオへの出演です。テレビのKAMON ケーブルやラジオのFM 東広島で会員が専門のお話をしています。

三つ目は地元タウン誌「プレスネット」への投稿です。広大マスターズの欄として「学びの窓」が開設され、平成29年10月より会員が連載記事を寄稿しており、30回を目指しています。

その他、「日本の20世紀遺産20選」の一つに東広島市西条の酒造施設群が選ばれたのを機に、景観保全のための景観条例を制定することに寄与したいと思っています。

今後も市民活動のバックアップという視点で社会貢献できるところを示しながら、協力していきたいと存じます。本日はまことに有難うございました。



【協会員 中山 章様 (NHK 文化センター広島総支社長) の挨拶（概略）】

この5月14日に着任したばかりの、NHK文化センターの中山です。日頃よりNHK文化センター広島教室へ講師を派遣下さるなどご協力を頂きまことに有難うございます。世の中の、いわゆるカルチャーセンターは平成11年～12年頃をピークとして次第に参加者が減少する傾向にあるといわれます。広島でも、なかなか集まりにくい傾向にあります。新しい生涯学習の「場」を提供していくためにぜひ、今後ともご協力をお願いしたいと存じます。よろしくお願い致します。



【新入会員 圓山 裕先生の挨拶 (概略)】

3月で理学研究科物理科学専攻を定年退職しました圓山です。4月から特任教授として学術室に籍をおいております。本日は理学部時代お世話になった先輩の先生方もおられ、身が引き締まる思いです。現在、山本理事のもと、研究推進支援を中心とした業務を行っていますが、大学の役割の一つとして、学術研究を通じた社会貢献が大事であると日々実感しています。今後ともよろしくお願い致します。



懇親会風景1



懇親会風景2



懇親会風景3



懇親会風景4

3. iPhone、iPad のブラウザによる本会のホームページの文字化けについて

iPhone、iPad では、ブラウザの関係で、本会のホームページが文字化けするという不都合が生じております。そこで、昨年7月、その解決策を松水征夫先生から「会員の広場」に投稿いただいております。

以下に、転載させていただきますので、参考になさってください。なお、写真は省略させていただきました。

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/masters2/matsumizu201792.pdf>

「iPhone、iPad のブラウザによる本会のホームページの文字化けの解消法について」

松水征夫

iPhone や iPad では、ブラウザとして Safari が搭載されていますが、私がこれまでに作成してきたホームページは、ホームページを作成した時期によって文字コードが異なるため、iPhone や iPad に搭載の Safari では文字化けをして正常に閲覧できないホームページがありました。

パソコンでは、いずれのホームページも、エンコードを日本語（自動選択）にしておくことによって文字化けすることなく閲覧できるのですが、iPhone、iPad ではそのような設定ができず、仕方ないとあきらめていました。しかしインターネットで、「iPhone iPad 文字化け ブラウザ」で検索すると、文字化けの対処方法として、

「ドルフィン (Dolphin)」というブラウザをインストールすれば、何らエンコードの設定をしなくても WEB ページを正常に閲覧できるという情報が掲載されていました。

「広島大学マスターズ広島」のホームページも、パソコンでご覧になる場合には文字化けしなくても、iPhone や iPad で閲覧すると、文字化けするので、何とかしてほしいとのご意見がこれまでも、何名かの会員からありました。(なお、スマホでも Android 系では、文字化けはしません。)

早速にアップル・ストアで、「ドルフィン」を入手できるかどうか調べたところ、無料のブラウザの中に「ドルフィン」がありました。すぐに「ドルフィン」を iPhone、iPad にダウンロードして、インストールしたところ、これまで文字化けして閲覧できなかった本会のホームページも、iPhone、iPad でも文字化けすることなく正常に閲覧することができることを確認していますので、お困りの方はぜひとも試してみてください。

次の写真は、私の iPhone で「ドルフィン」というブラウザ閲覧アプリをインストールして閲覧できるようになった本会のホームページを表示した画面です。

(写真省略しました)

4. 会員移動

【新入会員】

椿 康和 (元 社会科学研究科)

東川 安雄 (元 教育学研究科)

圓山 裕 (元 理学研究科)

【訃報】

会報 20 号でお知らせして以降、以下の 2 名の会員がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りします。

間田 泰弘 (元 教育学部)

高橋 衛 (元 経済学部)

広島大学マスターズ広島事務局

〒730-0053 広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号

広島大学東千田地区支援室気付

(FAX) 082-542-6964

(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp